

サンキュ〜、夏の笑顔



お笑い芸人
パンサーさん

左からボケ担当の菅(菅良太郎)さん、ツッコミ担当の向井(向井 慧)さん、小ボケ担当の尾形(尾形貴弘)さん。向井さんは吉本の男前ランキング2015で1位を獲得。尾形さんも同賞に5位で入賞している。ネタは主にコントが多く、菅さんがつくっている。テレビやライブなどで幅広く活動中。



お笑い芸人
すずらんさん

左がボケ担当で函館市出身の山本(山本貴之)さん、右がツッコミ担当で札幌市出身のシゲ(前田繁宏)さん。2000年にコンビを結成し、現在は北海道を拠点に活動する。11月23日(月・祝)に札幌で単独ライブ「SRS-SUZURISINGSUN」を開催する。



▲前列左からパンサーの菅さん、向井さん、尾形さん。後列左からすずらんの山本さん、シゲさん。控室でも爆笑トーク。

17歳新聞

2015
10月
[第19号]

編集新聞局員

責任者 第19号編集長 谷口 志帆
顧問教諭代表 横山 学
編集者 宇佐美 舞 葛西 愛理
小倉 幸恵 大丸 音々
竹内 終人

取材協力



株式会社
よしもとクリエイティブ・
エージェンシー

3年に1度の学校祭スベシャルゲスト。今年はお笑い芸人のパンサーさんとすずらんさん。当日まで誰が来るか知らされていないということもあり、二組の登壇に会場は大いに盛り上がった。それぞれの漫才やコント、プレゼントを掛けたじゃんけん大会などのサブライズに、終始笑いに包まれた時間となった。イベント終了後、インタビューをすることができた。

高校時代の思い出は？

菅さん 「雨が降ると憂鬱になって学校に行かない生徒でした。だから梅雨の時期は『菅、退学説』が毎年流れて…」
向井さん 「小・中学校のときは生徒会長とかをやっていたのですが、高校時代はまさにお笑いを目指していた。目立っているやつは売れないという風潮があったので、スラムダンクの『流川』みたいな空気を出そうとしていました。だから、本当はみんなと遊びたいのに遊ばないで、昼は1人で本を読んで…っていう感じを演出していた時期です。高校時代はそれがカッコいいと思っていたときがあったね」

尾形さん 「俺はもう、サッカー一本で毎日練習していました。で、めちゃくちゃモチベーション。ファンクラブがそこら中にあつて。家の最寄り駅で女の子7、80人が毎日並んでいて…」
向井さん 「3年前にこの話を聞いたときは7、8人だった。倍…。(笑)」
尾形さん 「…2人かな。でもホントにモチベーション。大谷もスポーツが強いから、頑張っばいいです」
山本さん 「僕は工業高校の土木工学科にいます。毎日測量ですとか橋の設計ですとか。(山本さんの真面目な回答に「同笑い」。今の仕事にそれが生かされているとはいえないですね。でも、すごく良い思い出でした」
シゲさん 「僕は柔道部でした。高3の最後の大会前に、先生と思いの出の乱取りという試合形式の練習をしたとき、足の小指が折れ…個人戦棄権。先生、3年間ありがとう…。(笑)」



▲テンポのよい漫才で会場を笑いの渦に。

北海道の印象は？

菅さん 「まず、三文字なのが凄いですね。三文字って北海道だけだから」
山本さん 「和歌山もありですよ。鹿児島も」
菅さん 「和歌山、鹿児島、北海道すべて同じ印象です。(同笑い)」
向井さん 「本当においしいものがいっぱいあると思います。有名な『えびそば一幻』のラーメンを食べました。おいしかったです」



▲ステージから私たちに「サンキュ〜」するパンサーさん。

お笑い芸人を目指す高校生にアドバイスをお願いします。

山本さん 「夢を持つ」ってことはすごく大事なことです。一回や二回の失敗で諦めてほしくないですね。どこの世界もそれは一緒で、失敗の陰に努力があつて、それが「いずれ成功の道に繋がる」と、僕は思っています」
シゲさん 「生漫才ができる相方を見つけてください」

向井さん 「我々を見て頂いたらわかります。尾形さんがこの仕事で飯を食べていることは、大概の人間はこの仕事で飯を食えると思いますよ。(笑)」

尾形さん 「ほんと、そうかも」
向井さん 「この世界は気持ちささえあれば能力じゃないと思う。あとはもう気持ち。大事なのはやっぱり、ここだよ」

尾形さん「メンター……ルール……」

札幌大谷高校の印象を「礼儀正しく、スポーツが強い」と語ってくれた二組。写真や対話からわかるように、楽しい雰囲気の中、丁寧にインタビューに応じてくれた。テレビ出演など全国で人気を集めているパンサーさん。地元で根付く活動をしているすずらんさん。これからの活躍を応援しましょう。

2015年
12/7~12
(月) (土)

第27回 札幌大谷高等学校美術科卒業制作展
第6回 中高合同美術展/infinity展
会場:札幌時計台ギャラリー(北1西3)

2016年
1/25
(月)

第26回 札幌大谷高等学校音楽科卒業演奏会
会場:札幌大谷大学 大谷記念ホール(北16東9)

平成27年度 札幌大谷中学校・高等学校
校外展
美術部、工芸部、書道部、写真部
新聞局、マンガ・アニメーション同好会
茶道同好会、華道同好会

かでの2・7 展示ホール 11月16日(月) 15:00~19日(木) 13:40

“新聞? 見てるよ、テレビ欄。” そんな人も、新聞局
~人と出会い、人に伝える新聞~

「17歳新聞」つくりたい生徒募集!
詳しくは横山先生または局長の宇佐美まで

バックナンバーは学校ホームページ「新聞局クラブ紹介」に掲載中!



テーマは「となりのトトロ」。本物そっくりに作り上げるために苦労した。「たくさんの人に喜んでもらえて嬉しかった」と受賞の喜びを素直に話してくれた。今回の作品はどのクラスもクオリティが高く、躍動感ある演出をするなど、上る人が楽しい気持ちになるユニークなものが多かった。大谷学校祭の風物詩となりつつある階段アート。来年の作品も期待しよう。

最優秀賞……1年6組

1年階段アート



1年ダンス発表

1年ダンス部門で最優秀賞を受賞したのは8組の「じよふる」。今流行のアーティストの振り付けを取り入れ「美術科だって、青春できる」という想いを胸に踊ったそう。テーマの「青春」には、美術科は真面目だと思われがちないメージを大きくくつがえしたいという思いを込め、インパクトが強くキラキラした言葉を選んだ。「美術科の真の一面を知ってもらいたい機会でした。今後8組全員で頑張っていきたい」と喜びを語ってくれた。今後の団結力にも注目していきたい。

最優秀賞……1年8組



学校祭3日目、11の個性的な模擬店が一斉に開店。当日、朝早くから登校して準備するなど、苦労した生徒も少なくない。食品を提供するため衛生面にも気を使った。「料理を食べて笑顔になっているお客さんを見て、やりがいを感じた」という生徒の声も聞かれた。校内の店では装飾に力を込め、可愛らしい外観に仕上げた。屋外の店では看板製作や鉄板を使った豪快な調理が見物だった。食券が完売したクラスも多く、大盛況で幕を閉じた。

3年模擬店

2年HR発表

最優秀賞 展示部門……2年11組
11組の発表は「B&B」。プレスレット作りとバルーンアートを体験でき、実演プレゼントやパフォーマンスを行うなど盛りだくさんの内容で来客者を楽しませた。提供するモノの質と接客にこだわりの、予算のやりくりにも苦労したそう。その分「やりきった」という達成感があった。受賞したときは素直に嬉しかった」と話してくれた。

最優秀賞 舞台部門……2年10組

10組が発表した「大きなチャイシュー」は、食べ物の大切さや仲間との絆をコメディイ感たっぷりに伝えるものだった。マイクの配置場所やセリフのテンポが良く、観ている人たちに内容もしっかりと伝わっていた。会場を楽しませる演出も多く、終始、和やかな雰囲気。起承転結のわかりやすい展開に懐かしさを感じた。

CM大賞



全クラスが制作したクラスCM。各学年の大賞のCMを紹介。
1年3組
ダンス発表「明るく元気にやる」のPR。クラス紹介を終えてダンスを踊ろうとしている生徒へ、自転車に乗った生徒がいきなり突っ込んでくる。予想を上手く裏切る形でまとめた。
2年4組
『縁日』が教室展示のテーマ。山の頂から、向かってくる敵に対してゴム鉄砲を発射。敵には当たらず悔しがる、という内容。インパクトが強くオチのある展開で笑いを誘っていた。
3年7組
「焼きそば」を販売した当クラスでは今話題を呼んでいるライザップ風のCMを作成。振り返ったときに変顔と焼きそばを披露するというコメディークな内容だった。担任の米山先生も参加しており、会場を沸かせた。



全国大会入賞報告

サッカー部や陸上部、美術部など、6つのクラブが夏の全国高校総体・総文祭に出場しました。なかでも、卓球部は高校総体で女子学校対抗5位、秋の国体で3位入賞。さらに佐藤瞳さんは、9月の世界ランクで29位となり、世界ジュニア日本代表選考会で優勝。水泳部は国体で千代くんが少年Aで6位、中島くんが少年Bで2位に入賞しました。



9月30日、「かどこの小さな名店」が惜しまれながら、41年の歴史に幕を閉じました。優しい笑顔で大谷生を愛してくれた「ラーメンの鵬龍」。新聞局では平成25年に取材し、店主の永井さんと奥様の人柄に触れ、心から温まるラーメンと思いやりに感動しました。

9月になると「思い出の味」を求めて長蛇の列が連日でき、卒業生や在学生でにぎわいました。30日の朝、みなさんのおかげで完成した「寄せ書き」を届けると、生徒からの感謝の言葉に目を潤ませ、鵬龍さんの看板風になした「色紙」を大切に飾ってくれました。寝る間も惜しんでスープを作り、最後の一杯まで感謝と笑顔で作りました。本当にありがとうございました。ありがとうございました。ありがとうございます。これからも二人三脚で、素敵な人生を送ってください。



バイタビュー

佐藤 喜宣



第67期生徒会執行部生徒会長、高校3年生。昨年12月に就任。生徒会8名のリーダーであり、学校を支える縁の下の力持ち。学校行事はもちろん、学校説明会では中学生に向けて大谷高校の紹介もする。

スタートは生活委員会

以前から生徒会に興味があり、1年生の秋に「生活委員会執行部」に加わった。委員会を通して企画や運営の楽しさを知り、生徒会の先輩の仕事ぶりを見て、2年生の秋に生徒会長に立候補した。

会長の不安

67期の生徒会執行部には66期で活動していた人が少なく、経験者にも頼れない状況があった。中学の生徒会経験もない佐藤君は「初めての生徒会長で、行事など何をすればいいかわからなかった」と活動当初は苦労が多かった。人前に出ることとは好きだが、会長という肩書きで挨拶をするときは、緊張して言葉が出なくなるという一面もあるそう。

達成感は一・二倍！

今年の学校祭を「ミスもあつたが、新しい企画やゲストイベントなどスムーズな運営ができた」と振り返る佐藤君。生徒会に興味のある後輩へ「大変な仕事が多い分、やりがいがあり、人倍の達成感を味わえる楽しい活動です」と生徒会の良さを穏やかな笑顔で話してくれた。

19 せんせいずかん

ホケンシツ科ハクシヨウ大魔王属 セト ミナ

- ▶生息地 本2選択教室
- ▶類似注意 あくびちゃん
- ▶元気の源 放課後のお菓子
- ▶座右の銘 ちりも積もれば山となる

